

生涯学習情報誌 - フォンズ - Fons

93

No. 2022年10月25日発行
常陸太田市フォンズ・ネットワーク事務局
常陸太田市生涯学習センター内
〒313-0061 茨城県常陸太田市中城町3280番地
TEL:0294(72)8888 / FAX:0294(72)8880
Webサイト: <https://hitachiota-fons.jp/>



写真:佐藤 善昭さん

鍋足山

佐藤 善昭さん (小中町)

〔取材〕 塩原 慶子

フォンズ創刊から二十年を超えましたが、地域の取材において、たびたびお世話になっている有志の方が何名もいらつしやいます。里美地区の佐藤善昭さんもおひとり。九十三号で鍋足山の特集をすることになり、表紙の写真を佐藤さんにお借りしようと里美に出かけました。

鍋足山では道に迷って捜索隊が出動することもあり、山を知り尽くした佐藤さんは、捜索隊からも頼りにされているほどなのです。佐藤さん曰く「山歩きは必ず複数人で出かけること」。

「子どもの頃から父に連れられて山歩きに親しんできました。『雨の日は絶対に登るな、滑るぞ。秋は落ち葉で道が分からなくなるから気をつけろ。』などなど。キノコや山菜採りの他にも、落ち葉さらいを日常的に行っていたのできれいでしたね。今は、一言でいうと山は荒れてしまっています。」

自分は、山の中を散策するだけで気持ちが落ち着くというか、キノコ採りとかいう目的で山に行くのではなく、山を歩いているだけで気持ちが安らぐので毎日でも山を歩きたい。山を歩いていて山菜・キノコを見つけたらそれはそれでラッキーという感覚で山に入っています。写真(6ページに掲載)のような大木の根を見つけると、それを見ているだけで元気が出てくる気がするんです。」

里美地区は真ん中に道があり、道の東西に山が広がっています。道の両側の山は違いがあるのでしょうか?とうかがっています。『東側の山は県北から東北までつながっていて、保水力も大きい。そのため、滝も水量が多く常時流れています。一方西側は山が薄く、すぐ水府地区に至ってしまいます。雨が降るとざあざあっと水は流れきってしまうので、幻の滝が多いです。幻の四十八滝って自分言っているんですけどね。』

佐藤さんとの出会いは、フォンズで里美の滝マップを紹介したのが始まりです。その後水府地区の滝も教えていただき、何度も表紙の写真を飾っていただきました。山道の整備や景観を邪魔しない看板の設置など、人に頼まれたのではなく山を思う気持ちで力を尽くされています。「この美しい山を、これからの世代の人たちに残したいという思いだけなんです。」

秋の自然散策

鍋足山



鍋足山

里美地区と水府地区の境にある山で、山頂は三つの峰からなる。山の形が、底にとがった三本の小さな脚がついた昔の鉄鍋に似ているところから「鍋足山」と名付けられたと言われている。

ルートは多様・今回はなだらかで歩きやすい大中コース
おすすめ紅葉を楽しみ散策する。

秋の森・ハツとするような美しい色との出会い！

・色さまざま：美しい紅葉

- 赤：ヤマウルシ・ナツツタ・ツタウルシ・オトコヨウゾメ
アカシデ・コナラ・ミヤマガマズミ・ヤマツツジ
コハウチハカエデ・ニガイチゴ・ミヤママコナ
- 黄：ヤマブキ・コアジサイ・ヤブムラサキ・ムラサキシキブ
サルトリイバラ・タカノツメ・ヤマコウバシ
エンコウカエデ・ダンコウバイ・テリハノイバラ・ハリギリ
- 赤・黄・緑のグラデーション：イロハモミジ・オオモミジ
- 黄・オレンジのグラデーション：ウリハダカエデ

※要注意！

ヤマウルシ・ツタウルシ
色つき良く美しいが、さわるとかぶれるので、
むやみにさわらず見て楽しむ!!



⑪ コハウチワカエデ

小葉団扇楓。小型のハ
ウチワカエデの意味。



① ヤマウルシ

山漆。触るとかぶれるので要
注意であるが、紅葉は美しい。



③ ナツツタ

夏蔭。葉はツタウルシに似て
いる。冬は葉を落とす。



⑩ イロハモミジ

いろは紅葉。カエデ（モミ
ジ）の代表的な種類で庭木
としてもよく植えられる。



② ツタウルシ

蔦漆。つる性のウルシ。
三枚の葉が特徴。



⑨ ダンコウバイ



苦母。種にはやや苦みがあるが、
果肉（赤い部分）は甘くておいしい。



④ ニガイチゴ

鍋足山入口

里美支所

大中神社

さとみ生産物直売所

里美ふれあい館
イベント広場



標高529m

山頂

菅原方面へ

見晴らしよく、
里美の景色を一望!!



ウリハダカエデ



瓜膚楓。名前は樹皮の
模様がマクワウリに似
ていることによる。

貴重なアカマツの林

鍋足山登山口

スギ・ヒノキの林



伐採された尾根に行く

16

15

14

ムラサキシキブ



紫式部。源氏物語の作者、
紫式部の美しさに例えた。

ウメモドキ



梅擬。実や花の形が梅に
似ていることによる。

6

ネズミモチ



鼠糞。実の形からネズ
ミの糞を連想した。

5

サルトリイバラ



猿捕茨。莖のトゲが目立ち、
葉は独特の香りがする。

8

雑木林が続くならかな道。



ガマズミ



蒲染。名前の由来は不明
であるが、実は果実酒と
してよく利用される。

ナンテン



南天。縁起木として植えられ
ていたが、野外で増えている。

・鮮やかに色づく実

赤： ナンテン・ウメモドキ・ガマズミ
ミヤマシキミ・サルトリイバラ
ヤブコウジ・ミヤマガマズミ

黒： ネズミモチ・ヒサカキ

赤紫： ツルリンドウ

黄金色： ヘクソカズラ

豆知識メモ

しよっぱいヌルデの実
別名、シヨツパイシヨツパイの木。実は塩分が
あり、昔のことはなめて遊んだ。
すっぱいウスノキの葉
ブルーベリーの仲間です。八〜九月頃
赤い実も食べられるがすっぱい!!



山頂の岩場には小さな祠が
あり「山の神」が祀られている。
ここからの眺望はすばらしく
立割・高鈴の山々、山田川の
谷をへだて西金砂や男体の
山々があり遠くには、筑波・
日光や那須の連山を望むこと
ができる。

倒木の向こうに
奥久慈男体山が見える。



ミヤママコナ



深山飯子菜。マコナは花の白
い斑点を飯粒にたとえて飯子
菜の意味。

ヌルデ



白膠木。ヤマウルシと間違
えられるが、葉の形や色
が違う。

ツルリンドウの花



蔓竜胆。つる性のリン
ドウ。うす紫色の花。

ヒサカキ



非楠。楠にあらざるの意味で、
神事でサカキの代わりに利用
される。生花店ではサカキ
として売られている。

ツルリンドウの実



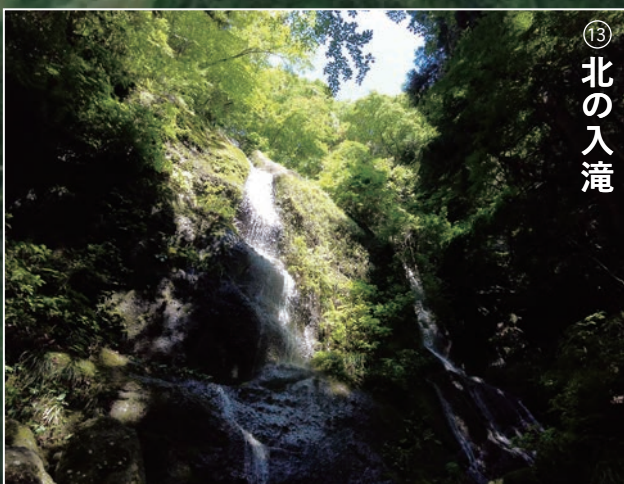
赤紫色、実が美しい。漢方薬
として利用されている。

初夏の自然散策

鍋足山・滝めぐり

今回は山の頂上は目指さず滝を見て周るルート。雨量が増すと麓からもいくつかの滝を望むことができることから鍋足四十八滝とも言われ、さらに巨岩や大木なども数多く手つかずの自然がいっぱい！

⑬ 北の入滝



すごい岩山と落差のある滝。滝つぼ周辺には苔むした倒木と岩石がころがる!!

⑫ ヘシダ



姫椿。和紙の材料のコウゾに似ていることから。

⑪ ヒメコウゾ



⑩ フタリンスカ



二人静。花の白い部分は三個の雄しべが球形に合体したもの。花の様子から「二人静」を連想した。

② イワシロイノデ



岩代猪の手。福島(岩代の国)で発見されたイノデの仲間。

③ クジャクシダ



孔雀羊歯。全体の形がクジャクが羽を広げた様子を思わせる。

④ マツカゼソウ



松風草。風に揺れる柔らかな葉を松風にたとえた。

P 小中ロードパーク

349

① 笹原登山口



車二台ほど駐車できるスペースがある。



ほぼ垂直の岩にひとすじの流れ!!
周りはゴロゴロの岩場!!



⑨ 中ん滝

北の入滝

⑬

紅羊歯。春の新芽の芽吹きが赤いので紅羊歯。



⑰ そそり立つ岩壁



⑮ 珍しい合体の木



⑯ 倒木のトンネル

25分

30分

25分

20分

3分

大小の苔むした岩がゴロゴロと転がる、沢づたいの道をすすむ。

鮮やかな緑色のタマアジサイ・クサアジサイの群落が続く道を行く。

破れ傘。若葉の様子が破れ傘に似ていることから。



⑭ ヤブレガサ

三角点峰へ

凸凹のある岩肌。岩の模様が「8」と人の「目」のように見えることから、名前の由来は諸説ある。



⑱ ハツチメ滝

ハツチメ滝

⑱

山頂へ

山頂へ

寒菅。常緑性で冬も葉をつけているので寒菅。



⑥ カンスゲ

小米空木。ウツギに似た白い小さな花を小米(こごめ)にたとえた。



⑧ コゴメウツギ

栃葉人參。トチノキの葉に似ているニンジン仲間の意味。



⑤ トチバニンジン

柏葉白熊。葉をカシワに、花を白熊(ヤクの尾の毛でつくった飾り)にたとえた。



⑦ カシワバハゲマ

藪手毬。白い花が美しい。



⑱ ヤブデマリ

八月滝に行き着く山道には、タマアジサイがたくさん咲きます。ただしこの時期はアブヤハチが多いので注意!!





フォト

フォトギャラリー 『鍋足山』

写真 佐藤善昭さん

表紙でご紹介した佐藤善昭さん。表紙用にお借りした写真には他にも素敵な写真がありましたので、あらためてご紹介します。



生命力を感じる面白い形の木



紅葉の鍋足山 月居山方面を望む



石を包み込むようにして根を広げている大木



冬の鍋足山



イワキサンショウウオ



イワキサンショウウオの分布図 (発表論文をもとに作成)

今年七月に新しいサンショウウオが発見されたというニュースがありました。京都大学の研究グループがトウキョウサンショウウオを詳しく調べたところ、福島県南部から茨城県北部にかけての個体群が別の種類にあたることわかり、論文が七月国際学術誌に掲載され、新種と認められました。学名 *Hynobius sengokui*、和名イワキサンショウウオ、となりました。トウキョウサンショウウオは関東地方から東北南部にかけて生育していることが知られており、開発等により絶滅が危ぶまれ、特定第二種国内希少野生動物種に指定保護されています。また、この種は旧太田二高生物部の生徒が熱心に研究発表し、一九八〇〜一九八七年にかけて県知事賞や教育長賞を受賞しています。教育界の中では太田のトウキョウサンショウウオはとて有名でした。現在、旧太田二高内の生息地は無くなってしまいました。今でも市内には十か所以上の生息地が知られています。新種発表論文にあった分布図を見ると常陸太田市は分布の中心地にあたり、市内のトウキョウサンショウウオのなかまは、すべて新種であると考えられます。市内には他にバンダイハコネサンショウウオとクロサンショウウオが生息しています。

学名 *Hynobius sengokui* の *sengokui* はTVでも有名であった、両生爬虫類学者の故千石正二博士への献名です。

ほっと



ひといき

『常陸太田市の

サンショウウオが新種に』 佐々木泰弘



思い出しの絵本

『つきよのくじら』

岡部 麻理江（白羽町）

ぼくらのなまえはぐりとぐら。ぐりとぐらぐりとぐら。繰り返しの文を歌にして聞かせた「ぐりとぐら」。歳を重ねて、心に残る絵本に加わったのは、「つきよのくじら」です。

幼いくじらが、家族を守るためにシャチと戦って姿を消した父さんくじらを探すお話です。坊やく



じらが、冒険心を抱いて世界の海へ泳ぎだし、周りの魚たちに励まされ、父さんくじらを探します。鋭い牙のシャチの群れに襲われますが、どこからか聞こえてきた「もぐれもぐれ深く深くもぐるんだ。」という声に助けられます。そして、つきの夜の晩に坊やくじらは、夢と現実の狭間で大きなくじらと潮の吹き比べをします。楽しい時間です。朝になって夕べの大きなくじらは父さんくじらだったのかなとまた元気に泳ぎだします。

坊やくじらの成長のお話ですが、読んでいくと父さんくじらの言葉に子どもを見守り子どもの成長を喜ぶ、我が子への深い愛情を感じます。何度読んでも父さんくじらの言葉ひとつひとつに、胸が熱くなります。子育て中は、子どもを見守り、子どもへの言葉かけを大切にしてきたつもりです。この絵本を読む度に、改めて言葉かけの大切さを感じます。いつか子どもたちに、この絵本をプレゼントしてみようと思います。



『きまぐれ食堂 英佐』

「取材」大内 広明

地元出身の佐藤英晃さんは、海鮮系や本格派横浜中華などで二十六年間経験を積んだ後、念願であった地元にて二〇一九年十一月にお店をオープンしました。

子供の頃、父の料理姿をみて、自然と料理を手伝う機会が多くなり、父親が釣りや山菜採りなど自分の手で食材を探すなど、食材にこだわりの影響も受けて、海鮮類では

毎日市場に足を運び旬の良いものを探し求め、野菜なども地元産のものを利用しています。「海鮮類や中華類以外にも創作料理も得意です。一度こだわりの創作料理を食べてほしい」と佐藤さんは話していました。夜も営業しています。



住所／中城町2995-1
電話／0294-87-9770
営業時間／11:30-14:00
17:30-22:00
定休日／火曜日



常陸太田の地名話

34

団子売

『常陸太田市真弓町団子売』

川松 博

真弓山中には団子売と
いうたいへん興味深い地名が残っている。ここを通る道路は、河原子、大久保、金沢方面から真弓山の大理石採掘場付近を通り、太田方面へと続く生活道路で、別名「塩の道」とも呼ばれている。かつては多くの人たちが利用していた。



団子茶屋があったといわれるところ

真弓神社は漁民を守る神社として崇められ、久慈浜や河原子方面からの多くの参拝者がいた。この道は大久保、金沢から出合い坂く堀切（火防線）く真弓く亀作く太田へと続く道で、堀切を過ぎると茶屋があった。この茶屋では、旅人や参拝者のために団子売っていたという。そこからこの地名が生まれたといわれている。

また一説には、真弓神社の例祭の日に、表参道登り口の鳥居付近や堀切を過ぎて、大理石採掘場へ下るところ付近に団子売を売っている。

いずれも旅人や参拝者のために団子売を売る茶店があったための地名と考えられ、かつて多くの人たちが行き交った「塩の道」の存在がなつかしくしのばれる。また、出合い坂には、金沢の里人が山犬を助けた民話も残っている。

<参考文献>

『茨城県地名大辞典』

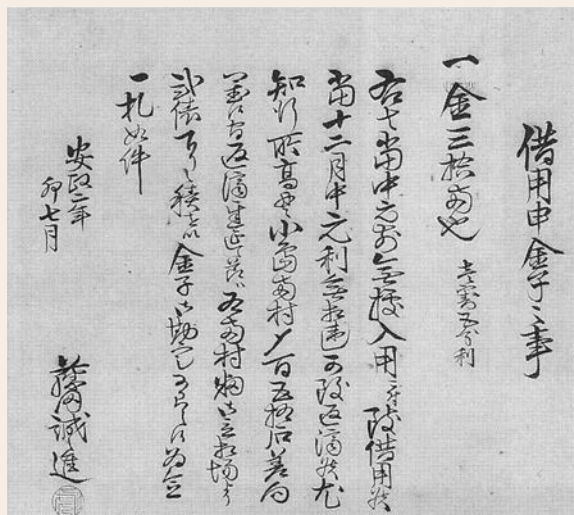
『地名を訪ねて 常陸太田市編』瀬谷房之助著

『ふるさと世矢 故きを温ねて』橋松壽著

新太田点描 28

藤田東湖の借用書

またゾロ東湖に関するものである。
先ず左の写真を見ていただこう。東湖の借用書である。紙面の大きさはタテ二十四・〇cm / ヨコ四十二・〇cmで掛軸仕立てになっている。



全文を読んでみよう。

借用申金子之事

一、金三十拾両也 壹割五分利
右者当年中元前無抛入用ニ付致借用候
当十二月中元利無相違可致返済候尤

知行所高貫小嶋両村ノ百五拾石差向
置候間返済遅延候節ハ右両村初御立相場より
式儀下り候積を以金子御勘定可有之候為念
一札如件
安政二年卯七月 藤田誠之進印

文面を掻い摘んでみると、『今年の中元前によんどころ無き事情により金三十両を利子一割五分で借用し、十二月中に返済する。その担保として自分の知行地である高貫村・小嶋村で秋に収穫され納入されるであろう年貢米百五十石を差し置いておく。もし返済が滞った場合はその分を年貢米から差し引いてもよい』との内容である。

一見するとごく普通の借用書のように見えるが、少し腑に落ちないところがある。この借用書には日にちと宛名がない。いったい何処の誰に宛てるつもりだったのか、該当する村宛てなのか、庄屋宛てなのか、それとも藩の年貢米を取り扱う御用商人か、或いは一般の高利貸しかということである。善意に解釈すれば、まだ相手方に発行する前で東湖の手元にあつたものとも考えられる。かつて常陸太田市を含む県北地方で区有文書や庄屋文書等の調査をした時に、当家の主人から、「我が家には東湖先生の借用書がある」と云つてこのような借用書を見せられたことが何度かある。借用金額に相違はあるものの借用書の文面は今回紹介したものとはほぼ共通している。が、ただ本文中の村名は借用書を所蔵する家のある村名が記載されていて、宛名はその家の先祖で恐らく幕末・明治期を生きた人であろう。その時、個人的な研究のためにと、当家の了

解を得て借用書を筆写し写真を撮らせてもらったことがある。また借用書に関する聞き取りも行ったが、「なぜ我が家に東湖の借用書があるのか皆目見当がつかない」という返答であつた。

ただ一人だけ興味深い話を聞かせてくれた所蔵者がいた。それによると、祖父が親から聞いた話として、

「明治の初めごろ、水戸の方から藤田東湖の借用書売りに来た人がいた。購入する話が纏まると位牌・過去帳などを調べながら先祖の名前を聞き出してその場で宛名を書き入れてくれ、大事なもののだからあまり人に見せたりしないで大切に保管しておくようにと言われた。と聞かされていました。たぶんこれがそうなんでしょうね。でもなぜ我が家に東湖の借用書なんでしょうね」と、醒めた物言い話してくれたのを今でも覚えている。

するとこの借用書は、高貫村か小嶋村あたりの裕福そうな家にも買つてもらつてもいいがアテがハズレて売り損ねた一枚なのであろうか。

幕末・維新时期に一世を風靡した東湖や東湖流の書跡は茨城県内のみならず全国的に流行し、数寄者やコレクターの間では垂涎の的となつていたのであろう。ましてや旧水戸藩領内の由緒家柄のある富裕な家ではなおさらである。

そこへ飛び込んできたのが東湖の借用書とくれば、ヨモヤ、ヒヨツとしたらの気持ち先走り、「とりあえず買つておくか、」と云うことになったのかもしれない。

今となつては真偽の程はさて置き、これから我が家の家宝として大切に大切に取扱われることを期待したい。嗚呼！
(吉成英文)